

株式会社 森川鑿泉工業所

2016年度環境活動レポート

(対象期間:2016年 6月~2017年 5月)

本社全景図



作成日： 2017年6月19日
更新日：

株式会社森川鑿泉工業所

環境方針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えています。

さく井工事・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事等の事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献するため、自然エネルギーの利用を推進とエコまちづくりの先導施策の提言を目指し、全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取組を進めてまいります。

<行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

①電力・自動車燃料・ガス・水道の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

②廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進

③水資源の節水

④地中熱利用システムによる節電

⑤事務用品のグリーン購入

⑥本社・倉庫周辺の清掃、緑化活動の推進

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日：2013年03月01日

代表取締役

森 川 俊 英

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 森川鑿泉工業所
代表取締役 森川 俊英
株式会社 モリカワソイル
代表取締役 森川 俊英
代表取締役 磯野 栄一
- (2) 所在地

本社 大阪府摂津市千里丘1丁目6番17号
茨木藤の里倉庫 大阪府茨木市藤の里2丁目7番17号
東京支店 東京都中野区東中野1丁目14番28号 CAN BLOCK201号
(株)モリカワソイル 大阪府摂津市千里丘1丁目6番17号

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部長 岸田 光隆 TEL : 06-6380-8181
担当者 技術者 長原 圭亮 TEL : 06-6380-8181

- (4) 事業内容

株式会社 森川鑿泉工業所
さく井・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事
さく井工事業 国土交通大臣許可(特-24)第22513号
管工事業 国土交通大臣許可(般-24)第22513号
株式会社 モリカワソイル
地質調査業
地質調査業 国土交通大臣許可(質-25)第2411号

- (5) 事業の規模

売上金額 3億7500万円

	本社	茨木藤の里倉庫	東京支店	(株)モリカワソイル	合計
従業員	12名	名	2名	2名	16名
延べ床面積	341.08㎡	2245.25㎡	48.4㎡	9㎡	2643.73

- (6) 事業年度 6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 株式会社 森川鑿泉工業所
対象事業所： 本社
茨木藤の里倉庫
東京支店
(株)モリカワソイル

対象外： ナシ

活動：

株式会社 森川鑿泉工業所
さく井・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事
株式会社 モリカワソイル
地質調査業

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	67,149	76,394	59,358
廃棄物排出量	トン			
一般廃棄物量排出	トン	0.69	0.68	0.7
産業廃棄物排出量	トン	432	267	312
総排水量	m ³	307	230	176
グリーン購入		34%	46%	57%
地中熱利用システムによる節電提案		21	22	23

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.531 kg-CO₂/kWh
 都市ガス使用量21Nm³の44kg-CO₂が含まれます。

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準値	2016年度		2017年度	2018年度
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	19,849	18,856	14,747	18,658	18,459
	基準年比	(2011年)	95%	74%	94%	93%
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	72,264	68,652	44,567	67,927	67,206
	基準年比	(2011年)	95%	62%	94%	93%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	92,113	87,508	59,314	86,585	85,665
一般廃棄物の削減	kg	960	912	702	902	893
	基準年比	(2011年)	95%	73%	94%	93%
節水	m ³	248	236	176	233	231
	基準年比	(2011年)	95%	71%	94%	93%
グリーン購入	比率	—	60%	57%	60%	60%
地中熱利用システムによる節電提案	件数	(2011年) 12	22	23	25	27

*事務所・資材置き場周辺の清掃は実施しております。

*上記表の二酸化炭素排出量は電力及び自動車燃料の他わずかの都市ガス使用があります
 (都市ガス 2016年44kg-CO₂)

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	△	継続	当社の商品である地中熱利用の空調使用。空調温度の適正化、不要照明の消灯を今後も継続して行う。
・昼休みの消灯	◎	継続	
・不要照明の消灯	◎	継続	
・OA機器の省エネモード設定	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・アイドリングストップ	○	継続	アイドリングストップ、信号待ち時エンジン停止も継続して行う。軽油の使用量の削減に努める。
・信号待エンジン停止	△	継続	
・冷房の控えめ使用	◎	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・分別ボックスの設置	◎	継続	分別し裏紙を使用している。今後も引き続き継続してゆく。
・裏紙使用	◎	継続	
・古紙のリサイクル化	○	継続	
節水			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・節水の呼びかけ	△	継続	節水を呼びかけ、手洗い等の水量を適正化に努めた。今後も継続して行う。
・手洗い水量の適正化	○	継続	
グリーン購入			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・事務用品のグリーン購入比率向上	△	継続	アスクルから事務用品購入に際してグリーン商品を選んでいる。今後も引き続き継続してゆく。
・			
地中熱利用システムによる節電提案			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・提案書を作成してPRする	○	継続	従来から積極的にPRを実施し実績に結びつきつつあります。
・ホームページの利用推進	○	継続	
・展示会でPR	○	継続	

□法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（汚泥等）	○
高圧ガス保安法	高圧ガスボンベ 適正管理	○
フロン排出抑制法	業務エアコンの簡易点検の実施	○
Nox・PM法・府条例	排気ガス規制に適合した自動車の使用・適合ステッカーの添付	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

地球環境に優しい工事(地中熱利用システムによる節電)の普及に努めている。工事も民間中心に営業し実績も上がり、現在実例として地下水を利用した実証実験を実施中である。当社の経営も地球環境に優しく、無駄・無理のない経営を証明するためにエコアクション21を認証取得し、取り組み4年経過し改善効果が出てまいりました。地中熱利用システムのPRを展示会等でし、今後も全社員がエコ意識を持続し業務に当たるよう努めていきたい。

□環境活動の紹介

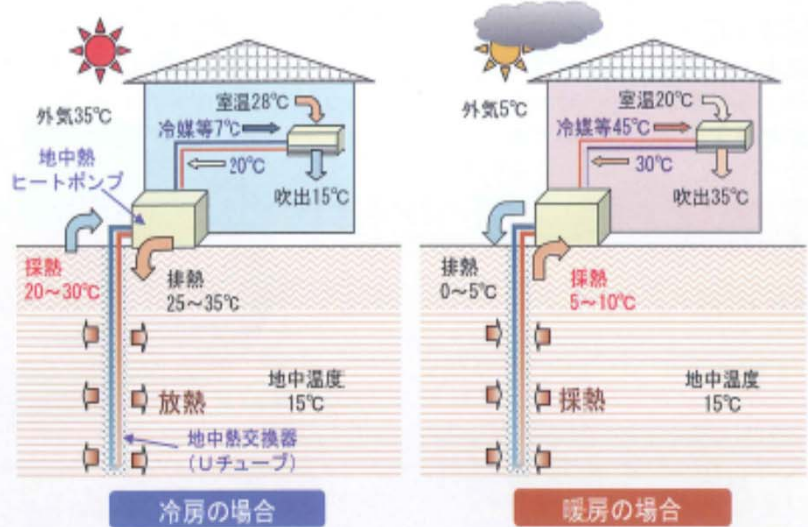
地中熱利用システムによる省エネルギー活動に取り組んでおります。

地中熱ヒートポンプシステムの特徴

地中熱交換器を設置して採熱・放熱

地中熱ヒートポンプシステムの中で普及率8割以上を占めるクローズドループ方式は、地中熱交換器、地中熱ヒートポンプ、室内機などから構成されます。

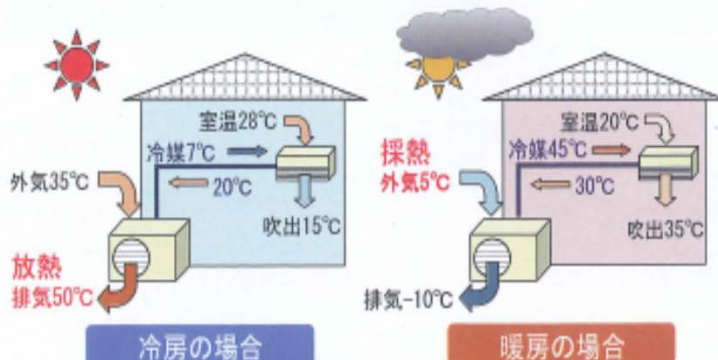
この地中熱交換器には垂直型と水平型がありますが、設置スペースが小さくて済む垂直型が広く普及しています。垂直型は、深さ数10~100m程度のポアホールにUチューブ(U字管ともいう)を挿入するもので、熱負荷に応じて必要総延長(深さ×本数)が決まります。



安定した地中温度を利用するメリット

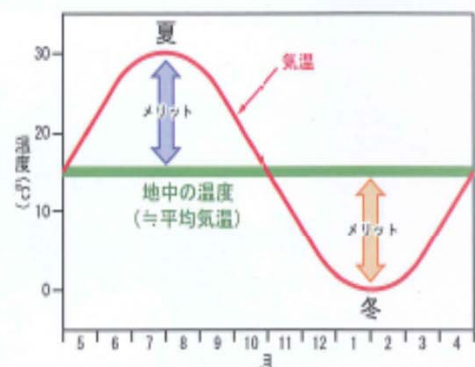
注) 図中の温度はイメージです。

冷暖房時に大きな節電効果



注) 図中の温度はイメージです。

空気熱源ヒートポンプのイメージ



安定した地中温度を利用するメリット

空気熱源ヒートポンプは、屋外の空気を熱源にしているために、夏は35°Cを超えるような暑い外気から温度を下げ、冬は5°Cくらいの冷たい外気から温度を上げなければなりません。

一方、地中熱ヒートポンプは、外気温に比べ夏は15~20°C低温の、冬は10~15°C高温の安定した地中熱を利用することで、空気熱源ヒートポンプで同じ温度の熱を作り出すのに少ない電力で済み、その結果節電が可能になります。